

「誰も置き去りにしない」保健サービスに向けて

- 実施団体：特定非営利活動法人ピープルズ・ホープ・ジャパン
ピープルズ・ホープ・ジャパン-アジアの母と子をささえる国際保健医療支援団体 (ph-japan.org)
- 対象国・地域：カンボジア国・シェムリアップ州（ソトニクム保健行政区）
- 事業実施の背景：
シェムリアップ州は、妊婦健診の受診率と医療者の介助による分娩率や施設での分娩率の格差が最も大きい州であり、安心安全な妊娠・出産のケアの向上が必要とされています。
対象地のソトニクム保健行政区では、特に保健サービスの利用率が低く、実に5人に2人の女性が保健サービスを利用せずに子どもを出産します。この背景には、医療施設まで遠く、物理的にアクセスが困難という問題だけでなく、住民側の知識不足や保健サービスを提供する側にも課題があります。
「誰も置き去りにしない」保健サービスの提供に向け、UHC（※）を達成するための重要な取り組みです。
※UHC：ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC） | [JICAについて - JICA](#)

推しポイント！

「取り残されている最後の人たちの健康をどう守っていくか」、それが本事業の大きなテーマ。保健サービスが行き届きづらい遠隔地域で、一人でも多くの女性に安心安全なお産環境を整備するため、保健センター、助産師、村の保健ボランティアなどの能力強化と連携強化を目指しています。特に「人間的なお産」のための助産師能力強化研修や、コミュニティの連携強化の継続サポートを通して、村の女性が安心安全にお産できる環境を整えていきます。また、JICAのグローバルアジェンダ（※）「質の高い母子継続ケアの強化」との関連性も深く、まさにJICAにとって「共創」するパートナーによる事業内容です。

（※）[JICAグローバルアジェンダ保健医療health.pdf \(jica.go.jp\)](http://health.pdf(jica.go.jp))

目標と活動

目標

- ・病院と保健センターの連携による助産サービス向上
- ・保健センターとコミュニティの連携強化
- ・コミュニティにおける保健ボランティアの能力向上
- ・地域住民の母子保健知識（特に安全な妊娠・出産に関する知識）の向上

活動

- ・助産師会議(保健行政区スタッフ、病院・保健センター助産師が参加)の定期開催・助産師の能力強化研修
- ・保健ボランティア能力強化研修・会議モニタリング
- ・保健ボランティアによる地域保健活動の保健教育啓発

現地からのレポート

雨季になると道が寸断され、保健センターへのアクセスがますます悪くなる地域も。何時間もかけて保健センターに通うお母さん達に安心してもらえるサービスを届けられるよう、保健行政区と保健センターの能力向上を図っています。



E-learning教材(※)を使った助産師能力強化研修にも取り組んでいます。

(※)JICA技術協力プロジェクトで開発された遠隔教育コンテンツ